市立甲府病院
地域医療連携だより

平成 26 年
7 月号
Vol.10

基本理念　「いのちに光を、心にやすらぎを」
いのちの大切さを重んじ、患者さんとの相互信頼の上に立った医療をめざします。

地域がん診療連携拠点病院

もくじ

◆院長あいさつ
◆新任医師紹介
◆ＤＭＡＴの活動　発足式
◆地域医療連携室の取組
◆紹介患者ランキング
◆外来各科の曜日別担当医表

院長あいさつ

院長　小澤　克良

盛夏の候、医療機関の皆様方にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より当院の地域医療における役割に対し、ご理解とご協力を賜り衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度、当院では、重要課題の１つとして、「地域医療における当院の役割への積極的な取組み」を掲げ、地域医療支援病院の認定取得に向けた取組を推進してまいります。

各医師会の皆様との交流会の開催や地域医療勉強会等を通して、例年以上に当院と各医療機関の皆様との連携を強化し、地域の医療機関から、これまで以上の信頼を得られるよう努めてまいりたいと考えております。

また、地域がん診療連携拠点病院として各種がんに対する診療レベルの更なる向上を目指し、患者さんにより良い医療を提供できるよう、地域の医療機関との親密な連携を強化してまいりたいと思います。

近年の医療を取り巻く環境は、医療ニーズの多様化など様々な要因でめまぐるしく変化しており、このような中で安心・安全で信頼される適切な医療を、効率的に提供するためには、地域の医療機関との役割分担と緊密な連携を欠かすことはできません。

当院といたしましても、地域の中核病院としての責務に積極的に取り組み、医療スタッフが一丸となり、地域医療の充実を推進してまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

市立甲府病院　地域医療連携室
〒400-0832　山梨県甲府市増坪町 366 番地
ＴＥＬ　055－244－1111（内線）2211
ＦＡＸ　055－220－2660

新任医師紹介

麻酔科
統括科部長 山口 敏昭

4 月より市立甲府病院に赴任しました麻酔科の山口敏昭です。
出身は地元甲府市で、山梨大学を昭和 63 年に卒業しました。
山梨大学麻酔科に入局し、関連病院と大学病院で 25 年ほど手術麻酔とペインクリニックに従事しました。前任地は独立行政法人国立病院機構甲府病院で、約 5 年間一人常勤で手術部長として勤務していました。今回ご縁ありまして、当院に勤務させていただくことになりました。実は、麻酔科 4 年目（20 年ほど前）の時に当院に一年間勤務していました。当時は幸町の旧病院でしたが、今回は新病院であり、気分も新たにがんばりたいと思います。
私の専門ですが、麻酔科としては一般麻酔（一般的な手術麻酔全体）をしています。術後の軽減やさわやかな覚醒など、患者さんにとって快適で安全な麻酔を心がけています。
外来業務としては、ペインクリニック外来を毎日行い、急性痛から慢性痛まで広く診察治療しています。また、手術室管理として、手術件数の増加を目標とし、より効率的な運営や材料管理を進めていきたいと思います。
まだまだ、不慣れなこともございますが、今後ともよろしくお願いいたします。

救急科
部長　前田 宜包

一言ご挨拶を申し上げます。
この度、救急科に赴任した前田宜包（まえだよしかね）と申します。
旧山梨医科大学第 1 期生の 1 人です。月日のたつのは早いもので、私が山梨の地に来て 30 年以上がたってしまいました。もういい年なんだ、という自覚を持つべき年齢です。
さて、日本は少子高齢化が問題となっておりますが、山梨はさらに 10 年進んでいると言われております。高齢者は慢性疾患をかかえているのが普通で、救急患者として診るうえで持病や内服薬の把握から始めねばならず、若い方の診療とは大きく異なります。加えて、医療過疎の問題は様々な取り組みがなされてはおりますが、特効薬というようなものは無く苦境が続いております。
この難局を乗り越えるには、地域の医療機関の機能分化を進め、連携を図る他はないと考えております。高齢者には「かかりつけ医」を持つように推奨し、われわれ勤務医はかかりつけ医との連携を図っていかねばなりません。自分自身も高齢者の仲間入りをする年になり、最後の仕事として病院と開業医の方の連携協力体制構築を選びました。今まで以上の連携協力をお願いいたします。

小児科
科長　北原 正志

4 月 1 日に着任した北原正志と申します。
3 月までは長野県の松本市にある「まつもと医療センター中信松本病院」に 6 年間勤務していました。
小児腎臓病が専門ですが、前任の施設では重症心身障がい児者、小児心身症、発達障害の診療に携わる機会も多くありました。
平成 2 年に信州大学を卒業し、ときどき市立甲府病院の小児の腎生検を手伝ったことはありますが、留学の 2 年間以外は全て長野県内の医療機関に勤めていました。まずは甲府の地に慣れて、地域からの信頼を得られるように努力したいと思います。
プライベートでは単身赴任となり、趣味であった家庭菜園や日曜大工、休日に家族に料理を振る舞う機会がゼロになってしまったため、これをどう克服するかも重要な課題です。
皆様方にいろいろ教わりながら、患者様によりよい医療を提供できるよう尽力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

産婦人科
医長　高木　司

国立甲府病院より転勤となり、4 月 1 日より市立甲府病院産婦人科で勤務させていただいております。山梨大学附属病院、山梨県立中央病院総合周産期母子医療センター、独立行政法人国立病院機構甲府病院高度周産期医療センターで主に周産期医療を中心に産婦人科医療に携わってきましたが、そんな産婦人科医としての日々も 12 年目に突入しました。
産科診療は病院の中でも珍しく「おめでとうございます」とご家族とともに喜びを分かち合えることが一番の醍醐味です。妊娠と分娩は生理的なものなので、大部分は何事もなく通り過ぎてしまうのですが、中には妊娠中、分娩中に危険な状態へと進んでしまう場合があります。
そのような事態をできる限り早期に発見し、回避できるように胎児診断や産科救急を修練しサポートできればと考え、日々診療しております。

消化器内科
医長　辰巳 明久

４月より消化器内科として勤務させていただくこととなりました。
卒後臨床研修初年度の学年で医師としては 11 年目です。
こちらにきてから約 ２ヶ月がたちましたが、最も印象的なことは当科の若手の成長ぶりです。
以前一緒に働いたときは ３ 年目医師や研修医だった若手が、いまは一人前に診療を行っている姿をみて驚いています。
これらは指導にあたった先生の賜物であり、また若手の努力によるものと思われます。
自身も大学院を卒業し、今後は指導的な立場になっていかなければならないと考えておりますが、実力、社会性において未熟であり、指導医および若手に見習い、研鑽を積まなければと考えております。残念ながら医局が離れていますが、他診療科との垣根のない情報交換も一般病院のよいところだと思います。
みなさまの役に立ってこその消化器内科と思いますので、今後ともよろしくお願いします。

呼吸器内科
医師　齊木 雅史

本年４月より市立甲府病院呼吸器内科に勤務しています齊木雅史です。
市川三郷町の出身で、市川中学校、市川高校、山梨大学へと進学しました。
卒業後、山梨大学医学部附属病院で初期研修を行い、山梨大学循環器・呼吸器内科へ入局しました。
呼吸器内科をこころざし、山梨県立中央病院で２年間トレーニングを受けました。
山梨から出ることなく、山梨で育ちました。
山梨県は他県に比べて喫煙率が高く、ＣＯＰＤや肺癌といった疾患を持つかたが多くおられます。また、感染症や喘息、間質性肺炎など呼吸器疾患は多岐にわたります。
県内の呼吸器内科医は十分足りているとはとても言えない状況です。まだまだ未熟ではありますが、今後も研鑽を積み、自分を育てて頂いた山梨県に少しでも貢献できるような呼吸器内科医になりたいと思います。なにとぞご指導ご鞭撻のほどを宜しくお願い致します。

小児科
医師　丸山 悠太

今年度から小児科に赴任致しました丸山悠太と申します。
山梨大学を卒業後、千葉県で２年間、長野県で１年間研修を行い、
３年ぶりに山梨県に戻ってくることとなりました。
まだまだ至らない点が多くご迷惑をお掛けすると思いますが、
少しでも地域の子供達や御家族の力となれますよう頑張りたいと思います。
よろしくお願い致します。

耳鼻咽喉科
医師　渡辺 浩介

今年度耳鼻咽喉科として入局いたしました渡辺浩介と申します。
医師としては６年目で、昨年までは山梨大学附属病院に勤務しておりました。
日常の診療に加えまだまだ勉強中のみでもあり、各々奮励努力邁進して参ります。
他科の先生方には患者・医療の相談や他御迷惑をおかけすることがあるかと存じますが、よろしくお願いいたします。

産婦人科
医師　篠原 諭史

こんにちは、今年度から市立甲府病院産婦人科で働いている篠原です。
新しい職場にもなれ最近やっと慣れてきました。少しでも患者さんの為に
役立てるように頑張りたいと思っています。
不慣れな点も多いですが、よろしくお願いします。

DMATの活動　発足式

阪神・淡路大震災を教訓につくられた DMAT とは、「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チーム Disaster　Medical Assistance　Team の頭文字をとって DMAT（ディーマット）と呼ばれています。医師・看護師・業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場に、急性期（おおむね４８時間以内）に活動できる機動性を持った専門的な訓練を受けた医療チームです。

当院では、災害時における医療救護体制を拡充するため、早い段階での DMAT の設置を目指し人員確保、装備、設備を整えて準備を進めて参りました。この度、その準備が完了し、この４月１日に正式に市立甲府病院 DMAT 隊として発足する運びとなりました。

現在、当院には医師２名、看護師３名、業務調整員１名の計６名の DMAT 隊員がいます。DMAT 隊員養成研修において４日間専門的な研修を受け、日本 DMAT 隊員として登録される事で DMAT 隊員として活動する事が出来ます。山梨県知事から派遣要請があった場合に医師・看護師・業務調整員からなる計４名から５名の隊員が現場に向かいます。DMAT の活動は、自己完結型であるため被災地等の支援に必要な資器材はもちろん、チームの生活に必要な物品全てを病院より携行し出動する事になります。派遣先では、活動拠点本部からの指示に基づき活動する事になります。広域医療搬送やトリアージ（ 病気やけがの緊急度や重症度を判定して、治療や後方搬送の優先順をきめること ）、被災地域内での医療情報収集と伝達、広域搬送医療拠点（ステージングケアユニット：SCU）における医療支援、域内搬送、現場活動等多岐にわたります。

今後、市立甲府病院 DMAT の更なる強化を目標に、現在 1 チームである DMAT を複数隊編成するように準備を進めて参りたいと思っています。また、いざという時のためにこれからもチーム一丸となり日々訓練に精進していきたいと思っています。

６西病棟　鶴田文美香（市立甲府病院ＤＭＡＴ看護師）

地域医療連携室の取組

今年度の地域医療連携室の重点的取組み項目の１つに「紹介率・逆紹介率」の向上があります。これは、地域医療機関との連携強化を目指した取組みで、紹介患者さんに対する医療提供、医療機器等の共同利用や研修等を通じて、地域医療を担う「かかりつけ医」を支援し、地域医療体制の中核を担う病院としての役割を果たすことであります。

紹介率を向上させるためには紹介状（診療情報提供書）が重要となります。初診の患者さんが紹介状を持参されることにより紹介率は向上しますが、本当の目的は次のとおり、患者さんにメリットがあるからです。

- 「かかりつけ医」からの紹介により、診察・検査等が予約されるので、待ち時間が少なくすみます。
- これまでの診療経過や投薬内容を把握できるためスムーズな診察ができます。
- 入院等の急性期治療が終わり次第、逆紹介により「かかりつけ医」での治療を継続することができます。
- 初診時に特定療養費（2,700 円税込み）がかかりません。

地域医療連携室長　巾　芳昭

紹介患者ランキング

2013 年 4 月～ 2014 年 3 月まで

昨年度ご紹介をいただいた患者様を、医療機関別に集計させていただいた結果は、次のとおりです。これからも地域医療連携に対しまして、ご理解・ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

病　　院		診療所・医院		歯　　科
山梨大学医学部附属病院	279	今井循環器呼吸器科	234	ふかさわ矯正歯科ｸﾘﾆｯｸ
甲府城南病院	181	境川診療所	210	中央歯科ｸﾘﾆｯｸ
山梨厚生病院	177	わかみや内科ｸﾘﾆｯｸ	164	本田歯科医院
笛吹中央病院	168	ながまつ医院	163	ハ二一歯科
地域医療機能推進機構　山梨病院	125	小林医院	151	城東歯科ｸﾘﾆｯｸ
山梨県立中央病院	103	古守医院	146	ふじたに歯科医院
甲府共立病院	102	うえむらｸﾘﾆｯｸ	141	フジモリ歯科医院
石和共立病院	83	石和南整形外科ｸﾘﾆｯｸ	141	miho 歯科矯正ｸﾘﾆｯｸ
石和温泉病院	77	黒沢内科	126	椎貝歯科医院
甲州リハビリテーション病院	74	ばんどう整形外科ｸﾘﾆｯｸ	122	ばば歯科医院